

迫り来る医療崩壊

勤務医は疲れている!

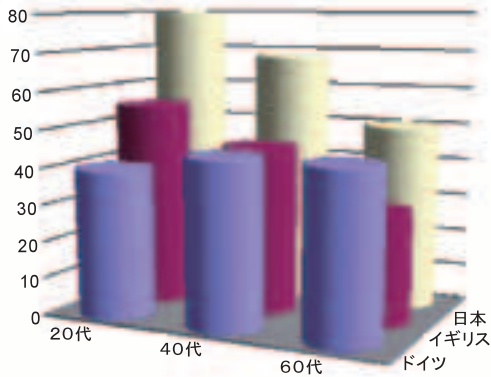
- 当直で徹夜しても翌日は普通に勤務
- 書類書きなどの仕事もたいへん多い
- 外来が混雑して昼食もとる暇がない



でも、大村市立病院からは小児科がなくなつたよ。他の科は大丈夫？

大村には病院があるし、医者もたくさんいるよ

近頃医師不足が報道されるが...



年代別医師の労働時間

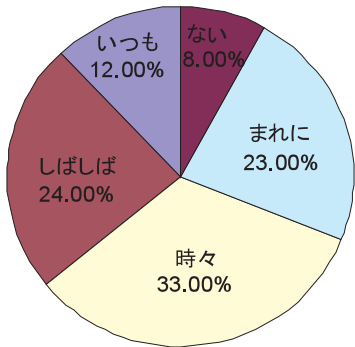
「医師不足」って?!

何が原因なの？

- 診療報酬が諸外国と比べてたいへん低い
- 医師の数が少ない
- 看護師など職員の数も少ないので医師の診療以外の仕事が多い
- 患者さんは軽い病気でも大きな病院へ→外来の混雑

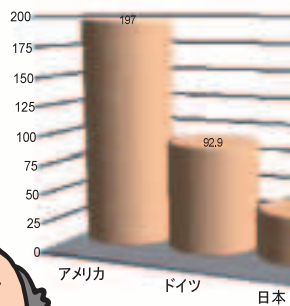


身心ともに疲れ果てたと思うことがある勤務医の割合

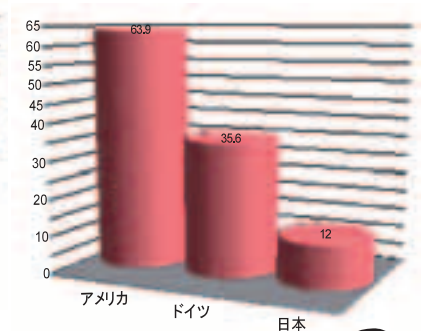


こんなに違う、入院環境

100床あたりの看護職員数



100床あたりの医師数



このままでは→「医療崩壊」

- 医療安全の低下
いまは現場の努力で事故防止……いつまでもつか？
- 疲れきった医師の「立ち去り」(退職)、大学医局からの派遣取りやめによる診療科閉鎖……現に他の地区では……

どうしたらいいの？



まず、安全な医療を行えるよう、十分な医療費を国が手当てするべきと考えます。

患者さんも地域の病医院の役割に一定の御理解を。



編集後記

医師会だよりも七回目の発行になりましたが、今回は「迫り来る医療崩壊」を取り上げました。大村市は国立・県立・市立の各病院と医師会が緊密に連携を取りあつて、国内でもまれにみる「良好な医療環境」を作り上げていますので、何のことも知らずにとる人は少ないかも知れません。

勤務医は疲労困憊しています。大病院を希望する患者さんは非常に多く、昼食もろくに食べない、多くの会議に時間を費やされ、保険・診断書・紹介状・などの書類書きや、手術・検査・退院などの説明、インフォームドコンセントに明け暮れる毎日を送っています。

当直の時には、殆ど眠れない夜をすごしても、翌日も診療があります。三六時間連続で働くことも稀ではありません。「年休」なんて全く無縁です。いったいどうしたらいいの？

いづれの国の言葉なのでしょう？ 疲労困憊で診療に当たることが医療事故にもつながりかねません。医師不足は深刻です。小児科医や産婦人科医の不足は全国的に大問題になってきています。

抑制され続ける医療費の中で、医療費を上げることが対応できない極限を上げています。国民医療費の中で国が負担する割合は最近二十年で5%も減少しています。窓口負担率は三割にもなり、医療保険料は上昇を続けています。国民もこの負担には耐え切れなくなってきました。

国民に負担を押し付けるのではなく、国で責任を持って医療費の手当てをしなければならぬと考えます。

今回の医師会だよりも、参考になれば幸いです。

大村市医師会 副会長 小尾 重厚

世界的権威来る!

講師：福岡大学 名誉教授
国際高血圧学会名誉会長
日本高血圧協会会長
荒川 規矩男 先生

第12回 大村市医師会 市民公開講座

平成19年11月9日(金)
長崎インターナショナルホテル
演題：『高血圧は何故怖いのか、どう対処するか』

オープンキャンパス 開催

大村看護高等専修学校

校内演習など実際に体験できます!
入試・学費・奨学金・学校生活・カリキュラム・卒業後の進路など、皆様の疑問やご質問にお答えします!
ぜひ、ご参加下さい!

日時：8月8日(水)・8月10日(金)
9時集合～12時迄の予定
場所：大村看護高等専修学校 (Jポウル[ポウリング場]となり)

お申込&お問合せ
TEL 0957-52-6712